

J41a **ブラックホール候補天体 MAXI J1836194 の発見とフォローアップ観測**
 中平 聡志 (理研)、根来 均 (日大)、上田 佳宏 (京大)、三原 建弘、杉崎 睦、松岡 勝 (理研) and
 MAXI team

MAXI J1836194 は 2011 年 8 月 30 日に MAXI によって発見された (Negoro et al., ATel#3611)。その数時間後には Swift 衛星によってフォローアップ観測がなされ、Swift/XRT によって正確な位置が決定された (Kennea et al., ATel#3613)。我々はその約 4 日後にややソフトなスペクトルへの変化を検出し報告をおこなったが (Nakahira et al., ATel#3626)、MAXI J1836194 は発見から約 15 日以降には再びハードなスペクトルへの変化を示した。

我々はアウトバースト開始からハードなスペクトルに戻る間の MAXI、RXTE 衛星や Swift 衛星のデータを調べた。その結果、1) MAXI のハードネス比 (4-10/2-4 keV) が 0.5 を下回らず、2) RXTE による root-mean-square variability (0.05-10 Hz) が 15-20 % に留まり、3) Swift/BAT 50-150 keV 帯域に卓越した放射を継続して示した事から我々は、MAXI J1836194 がソフト状態に遷移すること無く終息したアウトバーストであると判断した。同様の振る舞いを示した例として XTE J1118+480、GRO J0422+32 (Meyer-Hofmeister 2004) や H 1743322 2008-Oct (Capitanio et al., 2009) がある。

本講演では以上のことに加え、最初のフォローアップ観測から再度ハードなスペクトルに戻る直前までの期間に検出され、後期には消失した最内縁温度 0.2~0.3 keV の降着円盤成分の変化について述べる。上記には RXTE 衛星と Swift 衛星によるスナップショット観測に加え、最もソフトな時期におこなわれた「すざく」による詳細解析結果も含まれる。